

平成20年度京都府小学校基礎学力診断テスト 実施及び結果の概要  
府内児童の基礎学力はおおむね定着、「書くこと」領域が向上

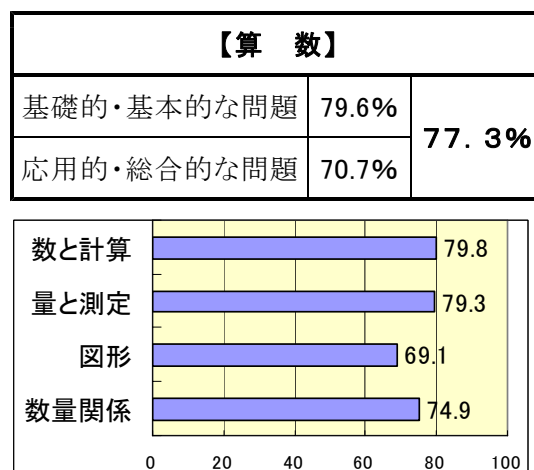
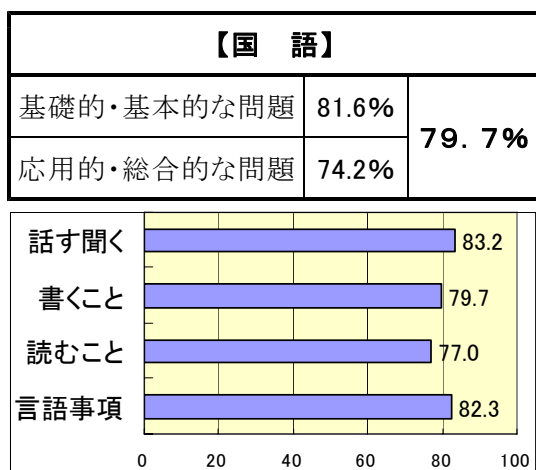
平成20年8月29日  
学校教育課

1 実施の概要

- (1) 実施日 平成20年4月10日（木）～4月17日（木）
- (2) 実施対象 府内全小学校（246校）・特別支援学校（2校）の第4学年児童
- (3) 実施教科 国語及び算数（国語・算数各22問）
- (4) 受験者数 国語 11,496人 算数 11,490人
- (5) 目的  
学習指導要領に示す目標や内容に照らして、基礎的・基本的な内容等が確実に身に付いているかを的確に把握するとともに、その結果を分析することにより、各小学校における授業改善を推進し、学力の充実・向上に向けての実践に資する。
- (6) 問題内容等  
前学年における基礎的・基本的な学習内容等の定着状況を把握するため、個々の児童の解答状況から学習課題を分析できるような問題を出題した。問題内容は教科書程度とした。（問題A）  
なお、本年度は試行的に、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などを問う「活用」に関する問題（問題B）を、国語・算数とも2問出題した。

2 結果の概要

(1) 問題Aについて



※ 数値はすべて正答率 (%)

【国語】

- ・ どの領域も8割程度の正答率となっており、おおむね基礎学力の定着が見られる。
- ・ ここ数年課題であった「書くこと」、「言語事項」の正答率が高くなり、改善が見られる。

【算数】

- ・ 基礎的・基本的な問題はほぼ8割の正答率となっており、おおむね基礎学力の定着が見られる。
- ・ 図形領域の正答率がやや低く、直角三角形を識別する問題に課題が見られる。

(2) 問題Bについて（試行）

【国語】

- ・ 地図や文字等の資料から必要な情報を読み取ることは、多数の児童ができています。
- ・ 必要な事柄を収集・選択し、自分の考えを適切に記述することには課題が見られる。

【算数】

- ・ 文字やグラフ等の資料から必要な情報を読み取り、筋道を立てて考えることに課題が見られる。
- ・ 実生活の場面を想定して、数学的な考え方を活用して問題の解決方法を説明することに課題が見られる。